

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 医療法人 岩河会

ユニット名 グループホーム びらふ

自己評価実施年月日 平成 20 年 10 月 1 日

記録者氏名 小松 美智子

記録年月日 平成 20 年 11 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域・ホームの生活のなかでその人らしく暮らし続けることができる為の支えとなる独自の理念を職員との話し合いのなかで作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目につきやすい場所に掲示するなど職員間で共有し、自覚と意識を持ちながら日々の介護に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報やホーム便り、パンフレット、家族会やホームの見学の機会を通して具体的にわかりやすく伝えている。	○ 地区の集まりに参加するなどして理念やホームの様子を地域に発信している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物・散歩・外食等の日常生活のなかで挨拶をかわすなどしての顔馴染みの関係ができています。	○ ホーム周辺の住民の方から季節のお花や野菜の苗を頂きホームの畑に植えるなどして食材として使わせていただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の方や地区の民生委員さん地区長さんと連絡を取り合いながら行事や地域活動への参加するなど交流をしている。	○ 町の文化祭、地域の運動教室、夏祭り、敬老会、福祉体育大会へ参加するなど地域の人々と交流している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	人材育成貢献として、専門学校や中学生の体験学習を受け入れる事で職員も気づきを教えられ事がある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価に全員で取り組み評価結果を報告し検討策を話し合い改善にむけて取り組んでいる。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	外部評価結果報告と改善の取り組み活動や利用者状況報告し、助言・相談を受けながら、双方向的な話し合いに努めている。検討事項は、事業所で話し合い報告、サービスに活かしている。	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	地域での学習会、地域活動への情報やサービスに関する課題を相談するなど市町村との連携を密にしている。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修に参加した職員が主となつて勉強会を行い職員間での理解を深めている。	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待が見過ごされることがないように部署会などで話し合い虐待防止に努めている。	○ 運営推進会議の場において市町職員からも話があり、さらなる理解を深めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時共に十分な説明を行って同意をもらっている。契約内容以外の事業所の方針や取り組みの説明を行い理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からのコミュニケーションを大切にし、日頃の言動や態度から個人の思いを汲みとれるように心がけている。また、職員間で共有し個人の意向に添うように配慮している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	身体状況に合わせた随時の報告・ホーム便り・月次報告（写真入）・家族会にて報告している。金銭出納帳を明示しご家族にサインを頂くなど定期的に報告している。	○ 家族会などにおいて、写真や行事のビデオなどで日頃の暮らしの様子を伝えている。普段の暮らしの中で、喜ばしい場面が見受けられた時は写真に残すなど暮らしぶりを伝えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や手紙・お便り、家族会を通して意見や苦情の場を確保、書面上に記載、意見や苦情は検討し家族に報告しサービスの向上に活かしている。また市町村窓口など意見・苦情を表せる場があることを説明している。	○ 日頃からの家族とのコミュニケーションを大切にしながら意見を気軽に聞いていただけるような、関係作りをしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を出しやすくなるような声かけや雰囲気を中心に心がけている。部署会・全体会で意見を聞き内容によって、職員で話し合っ解決している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者に十分にに関わり柔軟に対応できるような職員の配置をしている。行事・外出時には、多めの人数を確保している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動時は個別の引継ぎ、新職員の紹介などの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場・経験に応じ段階的に施設内外の受講ができるように取り組んでいる。研修を部署会で発表、報告し全職員が閲覧し共有できるようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の施設への研修や合同勉強会を開き交流をもっている。グループホーム連絡会の会に参加したり他事業所の研修などに参加し意見交換を行いサービスの向上が図れるよう取り組んでいる。	○	地域の同業者との学習会を二ヶ月に一度行い認知症の知識や技術を深めている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所との交流、親睦の場など気分転換を図れる機会をつくっている。また個別の面談による話し合いをするなど働きやすい環境になるようにコミュニケーションを取っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の力量に応じて職場環境を整え向上心を持って働けるよう助言・指導に配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の調査にての自宅訪問やホーム見学時に本人が安心して生活ができるように十分な話し合いを持ち困りごとへの解消に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の調査にての自宅訪問やホーム見学時にご家族の不安や困っていることを聞きとるように努め不安が解消するまで十分な話し合いをしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて現在のサービスが必要なのかを話し合いながら助言もおこなっている。早急に対応が必要な方には、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族に見学に来てもったり、昼食を共にして過ごしたり、自宅訪問するなどご家族に協力を得ながら個別に調整し入居につなげている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話を聞いたり料理を手伝っていただいたりする事でお互いに支えあう関係を築き喜怒哀楽を共にしながら生活を送っている。	○ 生活場面での昔の風習やならわし、生活の知恵・なつかしい料理などを教えていただいたりするなかで支えあう関係が自然とできている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	様々な場面において話し合いを持ちながら自宅での暮らしぶりや介護方法を教えていただいたりご家族との情報交換を密にしながらご本人を支えている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係に配慮しながらご本人の思いをご家族に伝え外出・外泊を勧めたり行事への参加をお願いしご本人と家族との触れ合う時間を大切にしている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や商店などにいたり、知人が遊びに来て下さるなどの関係づくりを大切にしている。またいつでも面会が歓迎できる体制づくりや出先で会った知人に次の機会が持てるような働きかけをしている。	○ ご本人の馴染みの人や場所へ出掛ける機会の支援をご家族と協力しながら行っている。(地区の敬老会など)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活全体のなかで支えあっている様子があり、職員は手を出さずに見守ったり調整役となり入居者同士のよりよい関係を保つことができるように気を配っている。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	隣接の施設へ転棟された入居の方が遊びにきて下さるなど退居の際の声がけに配慮している。	○ 家族会への参加や行事への呼びかけ・ホーム便りの郵送などホームへ来所していただけるような、きっかけづくりをしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションや利用者同士の会話に耳を傾けながらご本人の意向に沿うようにご家族と話し合っている。困難な時は職員間で対応策を考え利用者本位にむけてご家族と話し合っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用時にご本人やご家族などから今までの暮らし方や生活環境を聞き取っている。生活のなかで、わかること・できることを見極めながらご本人の全体像の把握に努める。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムや心身の状態に応じた過ごし方ができるよう申し送りにて現状を職員に伝え共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人にやご家族の意向を取り入れながら十分な話し合いを持ち介護計画の作成をしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の状況の確認をしながら評価を行い利用者の日々の変化に応じてご本人ご家族と話し合いながら介護計画の見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりのなか職員や利用者の会話での表情や行動を知ることによって利用者の思いや希望の把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族と連絡を取り合いながら通院への付き添いや送迎・外出の支援など必要に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間行事や防災訓練、地区行事への参加や図書館の利用など民生委員やボランティアなど協力しながら支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のサービス事業者や地域のケアマネジャーにサービスに関する相談を受けるなど連携を取り支援につなげている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会をきっかけに関係作りができ地域活動への情報や認知症の学習会・サービスに関する相談事などの協力関係ができている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時は病院の相談員や医療関係者と情報交換を行っている。また他の施設に転居した場合もこれまでの生活環境や支援方法について情報提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その場に応じた一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に心がけている。個人情報も外部に漏れることのないように取り扱いには細心の注意をはらっている		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた言葉かけや表情などに気を配り自己決定への支援をしている。	○	入居者さんとの馴染みの関係ができており、個人的に相談を受けることにより悩みや思いに答えることができています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調やコミュニケーションを通して一人ひとりの希望する暮らし方を尊重し買い物や散歩午睡など柔軟に対応している。	○	定期的に自宅の様子を見に出掛けたり知人に会って話をするなど楽しみながら生活している入居者の方への支援をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事やお出かけの時など好みの洋服をご自分で選んでもらったりと個人の生活習慣に合わせた支援をしている。	○	選べなくなった入居者の方には一諸に好みの服が選べるよう、さりげない支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で作った野菜を一諸に収穫し利用者のできる範囲内で調理・食事・後片付けを共に行っている。	○	テーブルの上に空の食器とおかずを置いておくと、気づいた入居者の方が盛り付けてくださる様子が自然とできている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの飲み物や食べ物を買物に出かけおやつの際に食べるようにしている。タバコはご本人の状態によって希望時に吸えるように配慮している。	○	献立表に好みの物を記入するなど本人の嗜好を知るきっかけ作りをしている。また地元の商店からのヤクルトや牛乳の配達も利用している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて排泄チェック表を使用し個人に合わせたトイレ誘導や声かけを行い自立に向けての支援をしている。	○	日頃から繊維の多い食材を取り入れること、水分を多く摂ったり、運動するなど心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者やにその日の希望を聞きその人に合わせた入浴時間に配慮しゆつくりと入浴が楽しめるように配慮している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調に応じて休憩が取れるようにしている。寝付けない時はお話をしたり温かい飲み物を出したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などを通して一人ひとりの力を発揮できる場面をつくり生きがいを持って楽しい生活ができるように支援している。	○	外出や地域行事参加等の楽しみ事は利用者と相談しながら出かけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながらご本人の希望にあわせて自己管理されている方もいる。買い物に行く時はご自分の財布からお金を支払っていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換・五感刺激の機会として一人ひとりの希望にそって散歩や買い物に出かけている。歩行困難な方は車椅子での外出の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事などは計画を立て出かける機会を作っている。ご本人の思いに沿った外出ができるようにご家族に相談し協力していただいている。	○	家族と連絡を取り合い毎年楽しみにされている地区の敬老会や秋の神社の祭りにでかけられるように支援している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて手紙や電話がかけられるように環境に配慮している。定期的に家族に電話をかけられる方もおられ家族とのつながりを大切に個別への支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の方がおいでた時は笑顔でご挨拶を交わすなど自然な形で迎えることのできる雰囲気づくりに心がけている。またお茶を勧めたりゆっくと話していただける環境への配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会に参加し合同部署会で話し合い共通認識を図り身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	必要に応じて面会時や電話連絡にて十分な説明を し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	一人ひとりの身体の状態を把握し健康管理を行っ ている。体調に変化が見られた時は職員間で共有 し主治医に相談・報告するなどの対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	一人ひとりが飲んでいる薬の内容を一つにまとめ 管理している。薬の変更や本人の状態に変化があ る時は薬剤師への相談や主治医への報告を行いご 家族にも伝えている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は一人ひとりの排便のリズムを意識しながら 援助している。便秘予防のため身体を適度に動か す機会や食事の工夫に配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	一人ひとりの能力に応じた援助をし毎食後の歯磨 きや義歯消毒の支援をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養状態や好みに合わせた調理方法 や味付けに工夫している。同事業所の栄養士に一 日の食事量や栄養バランスについての相談や助言 をもらっている。食事や水分量が少ない方には居 室にてお茶が飲めるように用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策についてのマニュアルを作成し実行している。外から帰った時の手洗い・うがいを職員・入居者を含め家族や面会の方にもお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な冷蔵庫の点検や掃除、食材は当日に買った物を使用している。まな板ふきは毎晩消毒し衛生面の管理に気を付けている。	○	感染流行時期には特に生ものを控えるなど食中毒予防に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に椅子を置き休憩の場を設けたり花壇に季節の花を植えるなどして季節感が感じられるような環境づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有生活空間から、ご飯の炊ける匂いやゆず湯・心地よい音楽など季節感に心がけ取り入れている。	○	ベランダに花やフェンスに緑の野菜をはやしたり、するなど光の差込みの調整をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や階段の踊り場に椅子やテーブルを置き仲の良い利用者同士がくつろげる場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族ご本人に話し使い慣れた馴染みの家具や日用品を使っている。	○	元美容師だった方が愛用されていたドライヤーをご自分で上手に使われている光景が日頃からある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中はできるだけ居室や共有空間ともに窓をあけ寒気をこまめにおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物干し台の高さや浴室のすり・トイレの高低など利用者の身体状況に合わせた配慮をしている。照明は目にやさしい光を取り入れるなどの工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの生活のなかでわかる力を支援しながら自立して暮らせるように配慮している。	○	トイレに張り紙をしたり部屋の入り口に目印を付けるなど自立に向けての工夫をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の周辺に花を植えたりベランダに野菜を蒔いたり家庭菜園をしている。ホーム内に畑があり水やりや野菜の手入れをする光景が日常的にある。	○	玄関先や庭にベンチを置き外気浴を楽しんだり・一休みがいつでもできるようになっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

地元でとれた新鮮な野菜が豊富で毎日の食材に取り入れている。肉や魚も新鮮であり食卓に並べている。診療所が隣接しており、受診や急変時の対応が即座に受けることができる。商店がホームの近くにあり、散歩や買い物などの生活環境に恵まれている。ホームの周りに畑や花壇があり、入居者と職員が協力し、収穫するなど季節感を感じることができる。職員が明るく笑顔がいつもある。ホームの中にも笑いがあり、入居者と職員が楽しく生活を送っている。